



Corporate Social Responsibility REPORT

CSRLレポート2017

Contents

■ 会社概要	02
■ トップメッセージ	03
■ 社会の中のニチアスグループ	05
特集01 VOC排出抑制に貢献する ニチアス製品	07
■ CSR活動への取り組み	
■ コーポレートガバナンス	11
■お客さまとのつながり	13
■ 株主・お取引先とのつながり	14
■ 従業員とのつながり	15
■ 社会とのつながり	17
■ 環境への取り組み	19
特集02 オールニチアスの 改善活動(NKK)	25

編集方針

ニチアスグループは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みと社会的責任に関する情報をわかりやすく開示し、ステークホルダーのみなさまのご理解を深めることを目的に、CSR(Corporate Social Responsibility)レポートを発行しています。

なお、本レポートの作成にあたり、「GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン第3.1版」および「環境報告ガイドライン(2012年版)」(環境省)を参考にしています。

報告範囲

ニチアス株式会社を中心に、下記項目を除きニチアスグループ全体について報告しています。

- ・「従業員とのつながり」(P15)の「ダイバーシティへの取り組み」「ワークライフバランス」についてはニチアス株式会社単体を対象としています。
- ・「環境への取り組み」(P19～24)は、プラント向け工事・販売事業および建材事業の工事部門に関するデータを除いております。
- ・「環境パフォーマンス」(P21、22)は当社製造工場^{注1}、国内連結製造子会社^{注2}を対象としています。

注1:鶴見工場、王寺工場、郡山分工場、羽島工場、袋井工場、結城工場

注2:ニチアスセラテック株式会社、株式会社堺ニチアス、国分工業株式会社、竜田工業株式会社、大田化成株式会社、株式会社福島ニチアス、メタコート工業株式会社、株式会社君津ロックワール

報告期間

2016年4月1日～2017年3月31日

次回発行予定

2018年6月

編集・発行

CSRチーム

将来の見通しに関する注意事項

本レポートには、ニチアスグループの実績および将来に関する予測・計画などが記載されています。これらは現段階で入手可能な情報に基づいた仮定な判断であり、実際の業績や活動結果などについては異なったものとなる可能性があります。読者のみなさまにはあらかじめご了承くださいようお願い申し上げます。

※®が付された名称はニチアス(株)の登録商標です。

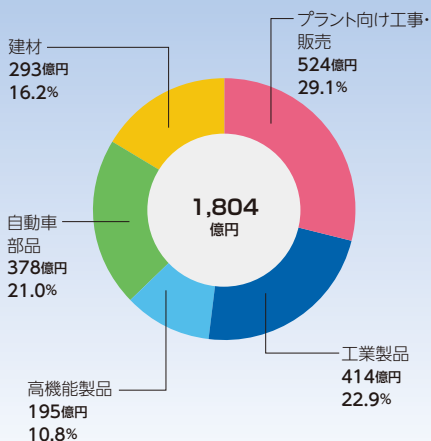
※TMが付された名称はニチアス(株)の商標です。

会社概要

「断つ・保つ」の技術で地球の明るい未来に貢献します。

事業分野

事業分野別売上高比率(2017年3月期)



建材事業

不燃・断熱・耐火などの性能を備えた建材を提供するとともに、その建材を活用した施工事業も展開。オフィスビル、住宅、工場、研究施設などの、より安全で快適な空間づくりに貢献しています。



フリーアクセスフロア



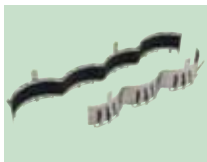
住宅用断熱材

自動車部品事業

シリンダーヘッドガスケットなどの流体の漏れを「断つ」機能部品であるシール材をはじめ、自動車の進化に対応する防熱、防音、制振関連の製品を提供しています。



シリンダーヘッドガスケット



ウォータージャケットスペーサー

プラント向け工事・販売事業

極低温から超高温にいたる領域で、独自技術を駆使したエンジニアリングサービスやシール材などをはじめとする製品を提供。電力、LNG、石油精製・石油化学などのプラント施設に常駐体制を構築することで、各種工事やメンテナンス工事におけるお客さまのニーズにお応えしています。



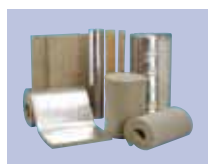
保冷工事



シール材

工業製品事業

装置機器、環境、食品、医療、鉄鋼などの主要産業分野を中心に、ガスケット・パッキン、ふっ素樹脂製品、各種断熱材、フィルター製品などの幅広い製品を提供しています。また、全社のマザー事業本部として、新規事業創出の役割も担っています。



ロックウール断熱材



シール材

高機能製品事業

技術革新の早いエレクトロニクス関連産業分野のなかで、半導体・FPD製造装置における、熱・薬液・ガスなどプロセスに関わる先進の部品や部材を提供しています。



ふっ素樹脂製チューブ

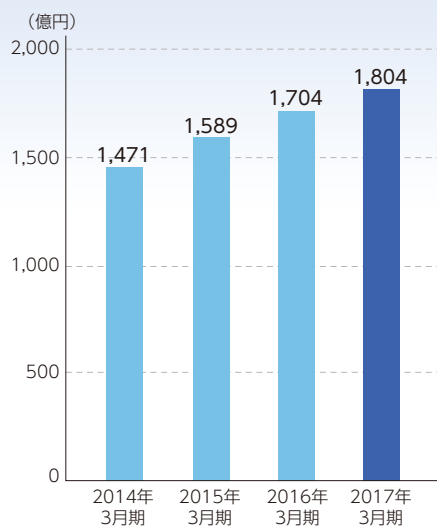


配管加熱・保温ヒーター

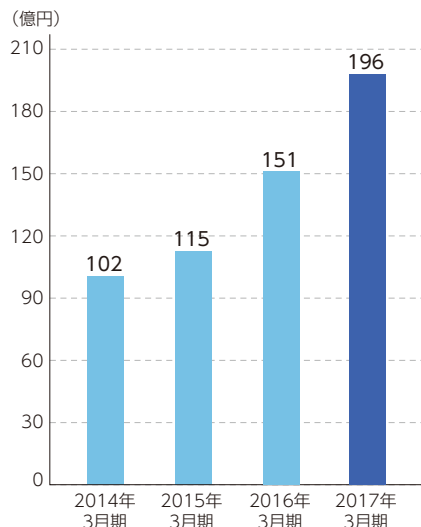
会社概要 (2017年3月31日現在)

商号 ニチアス株式会社
NICHIAS Corporation
設立 1896年(明治29年)4月9日
資本金 121億円
代表者 代表取締役社長 武井 俊之
従業員 連結:5,523人/単独:1,574人
本社 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号

売上高推移 (連結)



営業利益推移 (連結)



事業活動の推進と CSR活動の推進を両輪に、 ニチアス理念の実現を目指します。

代表取締役社長
武井俊之

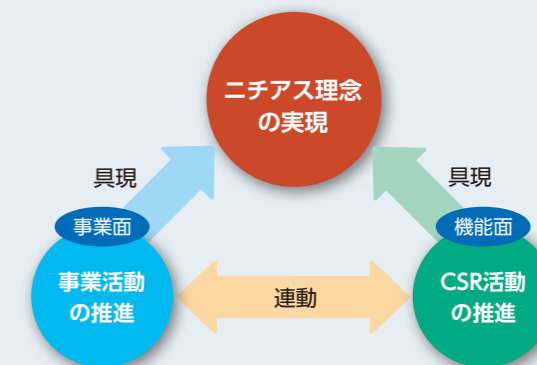
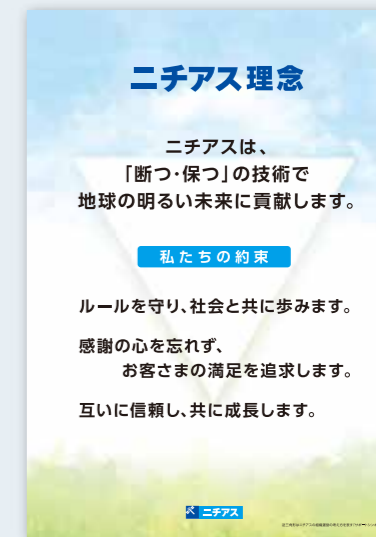
ニチアスは明治29年(1896年)、わが国における保温・断熱分野のパイオニアとしてスタートしました。以来120余年の歴史のなかで、当社独自の技術である「断つ・保つ」の技術を深化させ、わが国の産業の発展に貢献してまいりました。その結果、現在では5つの事業を生み出し、日本だけでなく世界で活躍する企業に成長しております。

当社グループの企業理念では、「ニチアスは『断つ・保つ』の技術で地球の明るい未来に貢献します」と掲げています。これは、当社グループが極低温から超高温という広い温度領域で、液体・気体をはじめとするさまざまな対象物に対して、漏れ・熱・音・腐食を「断つ」機能や、熱・クリーンを「保つ」機能をもった製品・サービスを提供することで社会的課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献することを表明したものです。

当社グループは、2016年度を初年度とする中期経営計画を策定いたしました。その施策として、事業面では①成長市場への注力、②海外事業の強化、③国内事業でのシェアアップを、機能面ではCSR活動の推進(社会的役割と価値の向上)を掲げております。これらを両輪として連動させることで、ニチアス理念の実現を目指します。

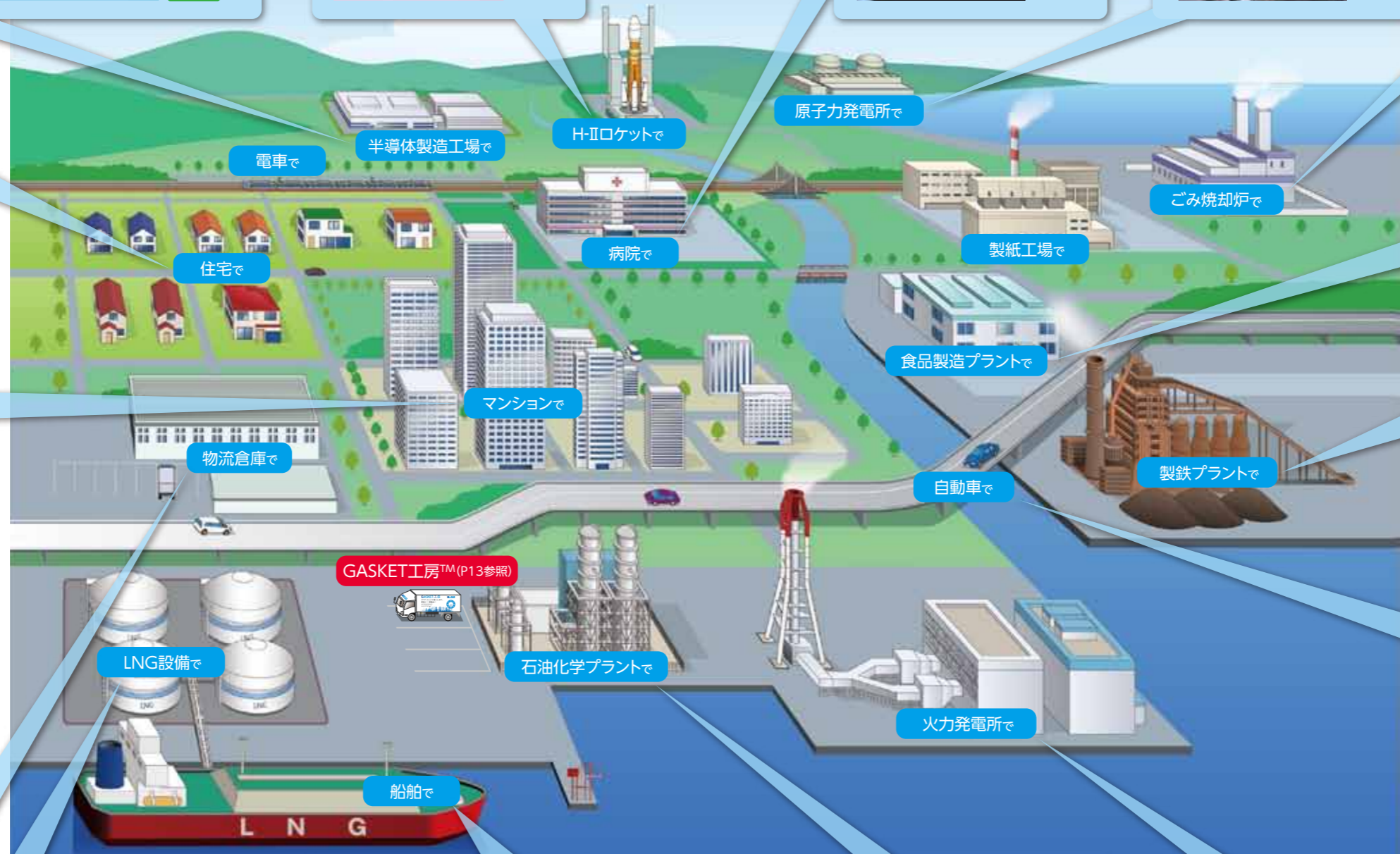
当社グループのCSR活動は、コーポレートガバナンスはもちろんのこと、お客さま、株主・お取引先の皆さま、従業員、社会の皆さまとのつながり、そして環境への取り組み、これらを軸とした活動を進めております。こうした活動は一部の従業員や地域だけで行うのではなく、全国そして全世界の従業員一人ひとりが、日々の活動として実施しているものです。

2016年度のCSR活動の成果をステークホルダーのみなさまにご報告いたします。本レポートをご一読いただき、当社グループのご理解の一助になれば幸いです。





ニチアスグループは「断つ・保つ」の技術でさまざまな産業の発展に貢献しています。



薬液移送用チューブ
ナフロン®PFA-HGチューブ
 高純度の薬液・ガスの移送に使用されるチューブです。



腐食を「断つ」
 クリーンを「保つ」

耐熱性パーフロゴム
プレイザー®ネクスト
 機器、配管およびバルブに使用されるパーフロゴム製シール材です。



漏れを「断つ」
 クリーンを「保つ」

メタル中空リング
メタルOシール
 ロケットエンジンの液体燃料配管の継手部に使用されるシール材です。




漏れを「断つ」

医療用チューブ
ナフロン®マルチルーメンチューブ
 医療機器の部品として使用されるふっ素樹脂製のチューブです。




クリーンを「保つ」

原子力発電設備用保温材
金属保温材
 原子炉の圧力容器や各種機器、配管に使用される金属保温材です。



熱を「断つ・保つ」

非金属製伸縮継手
NA ベロー-Q®
 各種配管やダクトなどの煙風道に使用される非金属製伸縮継手です。



熱を「断つ・保つ」

住宅用断熱材
ホームマット®
 住宅の天井・壁・屋根に使用される断熱材です。



熱を「断つ・保つ」

サニタリー用ガスケット
サニクリーン®ガスケット
 製品充填ラインなどで使用されるシール材です。




漏れを「断つ」
 腐食を「断つ」

汎用ジョイントシート
クリンシル®ブラウン
 各種配管のフランジやバルブなどに使用されるシール材です。



漏れを「断つ」

アルカリアースシリケート (AES) ウール
ファイフレックスBIO®ブランケット
 ボイラーの天井や炉壁などに使用される断熱材です。



熱を「断つ・保つ」

排気ダクト用防火材
セラカバー®S
 マンションの排気ダクトなどに使用される防火材です。




火を「断つ」

シリンダーヘッドガスケット
メタコート®
 エンジンのヘッドガスケットに使用されるシール材です。




漏れを「断つ」

巻付け耐火被覆材
マキベエ®
 鉄骨構造ビルの梁や柱に使用される耐火被覆材です。



火を「断つ」

保冷工事
LNG基地、LNG船、配管、タンクやその他設備への保冷材の取り付け工事です。



熱を「断つ・保つ」

ノンフロン硬質ウレタンフォーム
フォームナート®TN
 低温流体用の配管に使用されるウレタンフォーム保温材です。



熱を「断つ・保つ」


低熱伝導率フレキシブル保温材
パイロジェル™XT
 高温の配管、機器、タンクなどに使用される保温材です。



熱を「断つ・保つ」

*「パイロジェル」は aspen aerogels, Inc. の商標です。

うず巻形ガスケット
グラシール®ボルテックス®ガスケット
 エンジンやボイラーなどの機器や配管で使用されるシール材です。



漏れを「断つ」

超軽量防音カバー
エアトーン®
 トランスミッションカバーなどに使用される防音カバーです。



音・振動を「断つ」

VOC排出抑制に 貢献する ニチアス製品

特集01

大気汚染による環境負荷の増加は、経済成長していくうえで避けては通れない課題です。大気汚染物質は、古くは石炭燃料燃焼によるばいじんでしたが、その後、産業発展にともないNOx、SOx、PM2.5など汚染物質が多様化してきました。

現在、大気汚染物質のなかでも、特にVOC規制の機運が高まっています。2016年から世界一位の工業生産高の中国で大気汚染防止法が強化されたことを背景に、VOC排出量の抑制に多くの企業が取り組んでいます。

ニチアスは、1980年代から除湿用のハニカム形状のフィルター関連製品の製造を、そして1990年代には、それまでに培ってきたノウハウを活かして溶剤濃縮機「ソルベントクリーン®」の提供を開始しました。VOCの排出を抑制し、大気汚染による環境負荷低減に向けた取り組みに貢献しています。

VOC：Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物) の略。

NOx：Nitrogen Oxides (窒素酸化物) の総称。ボイラーや自動車の排気ガスなどから排出される一酸化窒素(NO)などがある。

SOx：Sulfur Oxide (硫黄酸化物) の総称。石油や石炭を燃焼させることで発生する二酸化硫黄(亜硫酸ガス)(SO2)などがある。

VOCの排出によって生じる課題

VOCは塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーなどに含まれるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどが代表的な物質です。一般的には「有機溶剤」と言われています。

工場からの主な排出物のなかでNOxやSOxは早くから問題視され、対策が進められてきましたが、VOCの対策は遅れていました。VOCが大気中に排出されると化学反応を起こして、光化学オキシダントやSPM(浮遊粒子状物質、日本ではPM2.5が有名)が生成され、大気汚染の原因となります。

大気中で化学反応を起こし、汚染物質に変化



VOC起因による主な大気汚染と健康被害

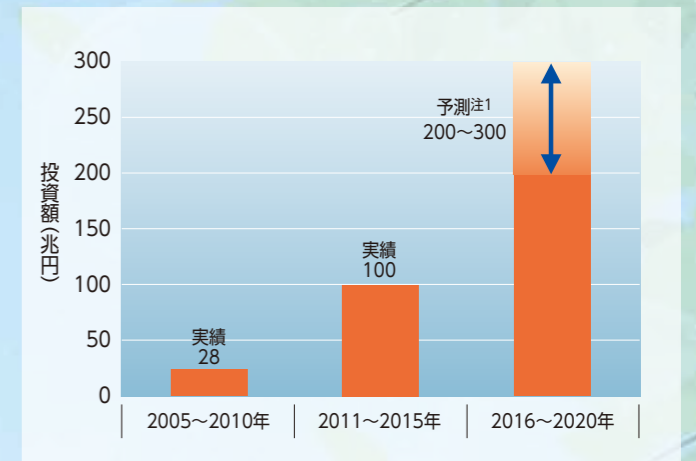
大気汚染原因物質	主な大気汚染	主な健康被害
光化学オキシダント	光化学スモッグ	目や喉、皮膚などへの刺激症状
PM2.5	粉じんの発生	呼吸器系への健康疾患

急激な高まりを見せるVOC規制対応の重要性

工業生産高世界一位の中国は、深刻化する大気汚染を背景に環境対策を最重要課題の一つとしており、2016年に改正大気汚染防止法を施行し、環境規制が本格化しました。具体的には排出量をm³あたり20-100mg以下にするよう要求されており、これは各先進国の排出基準より厳しいものとなっています。また、2016~2020年の環境保護対策投資額は約200~300兆円^{注1}に上るとも言われているため、違法行為に対する罰金額を大幅に引き上げるなど、各企業の対策を促しています。

このような中国での動きは今後、東南アジアやインドにも波及すると考えられ、VOC排出にともなう環境負荷低減に対する期待はよりいっそう高まっています。

中国での環境保護対策投資額



注1:2015年中国環境保護上場企業サミット推測

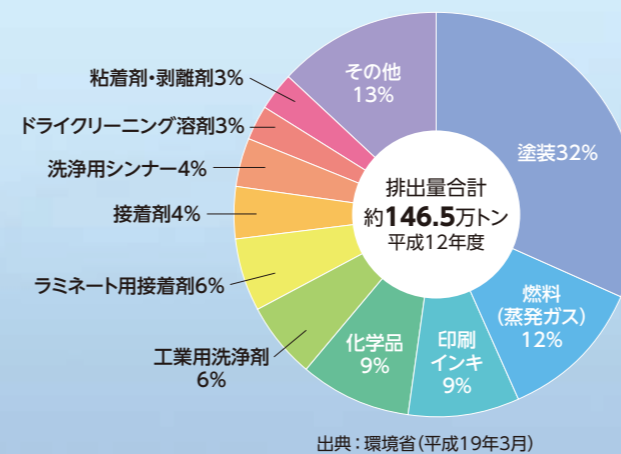
出典:「ECONOMIC INFORMATION DAILY」2015年12月21日付記事

VOC対策へのニチアスの取り組み

VOCは幅広い業種から排出されますが、塗料、洗浄剤、接着剤、インキからの排出が全体の75%を占めています。

当社のソルベントクリーンは、吸着剤別に3種類のロータをラインアップし、幅広い産業のVOC処理に貢献しています。

VOC排出量と主な排出源(国内固定発生源)



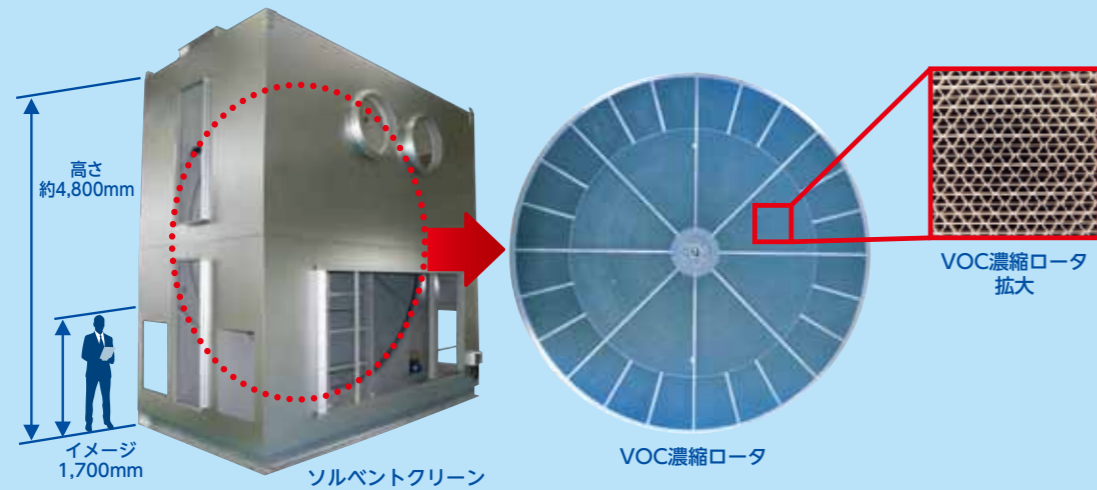
幅広い産業の排出溶剤に対応するソルベントクリーン

製品ラインアップ	業界	主要排出溶剤名
ソルベントクリーン HZ-XM	塗装	トルエン キシレン トリメチルベンゼン 酢酸エチル 酢酸ブチル
ソルベントクリーン HZ-BM	印刷 液晶	IPA アセトン MEK 酢酸エチル
ソルベントクリーン HZ-AM	半導体	IPA アセトン PGMEA PGME 酢酸ブチル
ソルベントクリーン HZ-AM	リチウムイオン 電池製造	NMP

VOC処理を効率的に行うソルベントクリーン

ソルベントクリーンは、処理の難しい低濃度、大風量のVOC含有排ガスを、高濃度、小風量に濃縮する装置です。少ない容積で大きな表面積をもつハニカム状のフィルターにて濃縮をおこないます。VOC処理装置に組み合わせることで、今まで大気に放出されていたVOCを効率的に処理することができます。

VOC排出抑制に
貢献する
ニチアス製品
特集01



VOC処理装置に共通する課題とソルベントクリーンの効能

VOC処理の効率化とコストダウンを実現

VOC処理装置による処理方法は、以下の3つに大別されます。

- 燃焼法** 燃焼装置でVOCを酸化分解します。
- 冷却回収法** 冷却回収装置でVOCを回収処理します。
- 吸着回収法** 吸着回収装置でVOCを回収処理します。

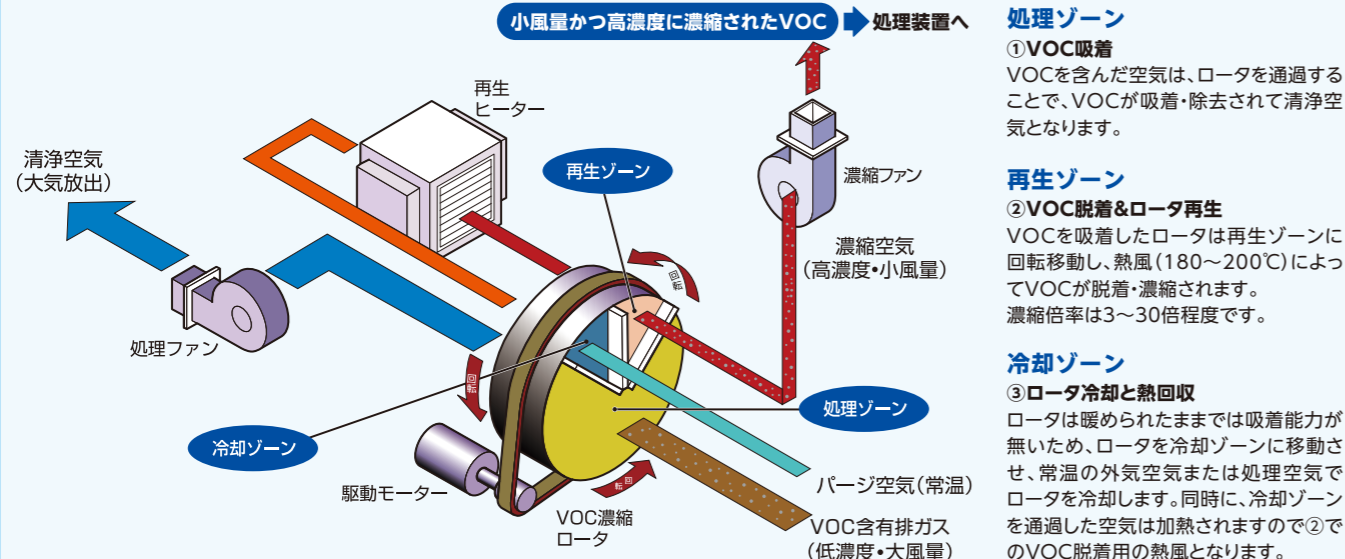
大風量かつ低濃度のVOC含有排ガスを処理する場合、いずれの構造においても大掛かりな設備が必要となり、イニシ

ャルコストやランニングコストが非常に高くなるという課題がありました。

ソルベントクリーンを使用することで、困難とされていた大風量かつ低濃度のVOC含有排ガスを、小風量かつ高濃度へ濃縮可能となり、従来の処理装置(燃焼法、回収法など)と組み合わせることで、VOC含有排ガスの処理を効率よくおこなうことが可能になります。

ソルベントクリーンはさまざまな装置での効率的なVOC処理とコストダウンに貢献します。

ソルベントクリーンの構造



ソルベントクリーンの特長

特長1 **低いランニングコストで処理が可能**
大風量かつ低濃度の排ガス処理に適しており、処理システム全体のランニングコストが低く抑えられます。使用エネルギーの削減に貢献します。

コスト低減に貢献

特長2 **高浄化性能**
排ガスに含まれるVOC成分を最大99%まで除去可能です。大気に排出されるVOCを低減し、環境負荷を抑えます。

VOC成分最大99%除去

特長3 **高濃度に濃縮可能**
排ガスに含有するVOCの濃度を3~30倍まで濃縮することが可能です。濃縮ガスを処理する装置を小型化することができるため、イニシャルコストの削減に貢献します。

VOC濃度最大30倍濃縮

世界の工場で貢献するソルベントクリーン
ソルベントクリーンは日本、中国、韓国をはじめとする10カ国以上の国に、1,000台以上の納入実績があります。グローバルで幅広い産業の環境負荷低減に貢献しています。

納入実績数 1,000台以上

開発責任者の声

世界中の大気汚染対策に貢献する製品を目指しています
ソルベントクリーンの開発・生産・拡販戦略全般を担当しています。VOC処理装置のコンパクト化とランニングコストの削減を可能にするのが本製品の特長です。現在、中国を中心に大きな需要の伸びを見せており、お客さまからの問い合わせ件数や展示会の来場者数も急激に増加しています。今後、東南アジア・インドなどでもニーズ拡大が予想され、ソルベントクリーンは世界中の大気汚染対策に貢献する製品になっていきます。お客さまからは、法定のVOC排出基準を達成するのはもちろんのこと、さらなる吸着能力の向上を求められています。こうしたご要望や各地域の環境の違いなどにも柔軟に対応できる高性能な製品を、継続的に開発していきたいと考えています。

工業製品事業本部 環境製品技術開発部 部長 栗谷 浩

コーポレートガバナンス

ニチアスグループは、経営の透明性、公正性、効率性を高め、企業価値を長期にわたり安定的に向上させることが経営の最重要課題と考えています。



コーポレートガバナンス

当社グループの企業価値の向上は、公正な企業活動によって社会的使命を果たし、ステークホルダーの皆さまの信頼と支持を得て初めて可能であり、コーポレートガバナンスの充実はそのための体制づくりの基本的な命題であると位置付けています。

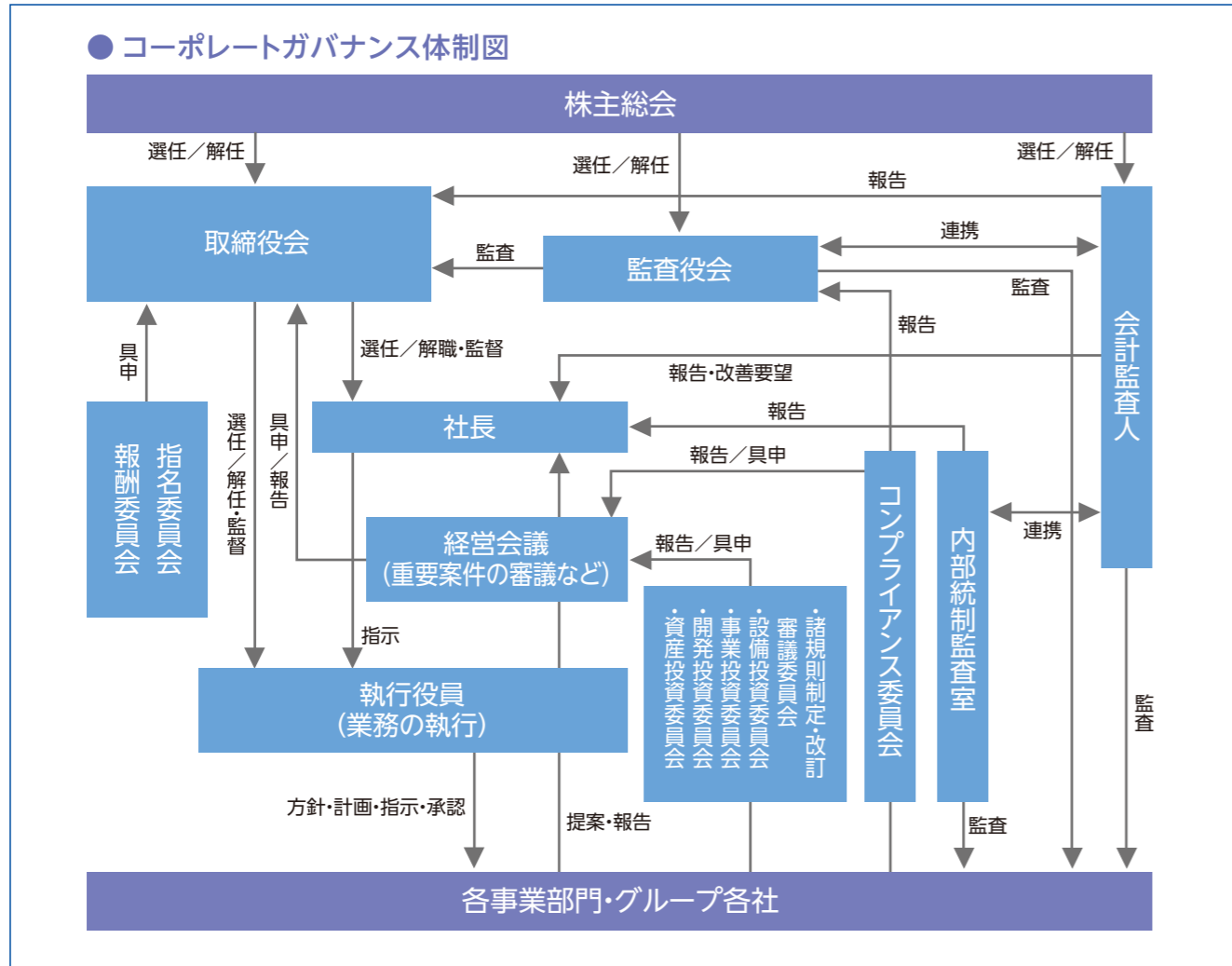
当社の取締役会は、経営の透明性、公正性を高め、かつ経営上の意思決定を迅速に行うため、当社事業に精通した8名の取締役と、独立した立場から自由に提言できる2名の社外取締役で構成しています。毎月定例日に1回、必要な場合は臨時に開催し、経営上の重要な意思決定を行っています。2016年度は合計14回開催しました。このほか、取締役会を効率化するための審議機関として、取締役、常勤監査役、各本部を担当する執行役員により構成される経営会

議を原則毎週開催しています。稟議案件の承認、全社的な業務運営や個別の重要案件を審議することで、機動的な意思決定が可能となる体制を構築しています。

また、当社の監査役会は経営監視機能の客観性と中立性を確保するため、それぞれ専門分野をもった社外監査役と常勤監査役によって構成されており、経営に対して積極的な意見表明を行っています。

さらに、内部統制については内部統制監査室が当社グループの内部監査を計画的に実施しています。2016年度は、社内15拠点(営業13、製造2)、グループ会社16社(国内7、海外9)を対象に内部監査を行いました。

当社はこれらの体制を構築することにより、経営の透明性、公正性、効率性を高めています。



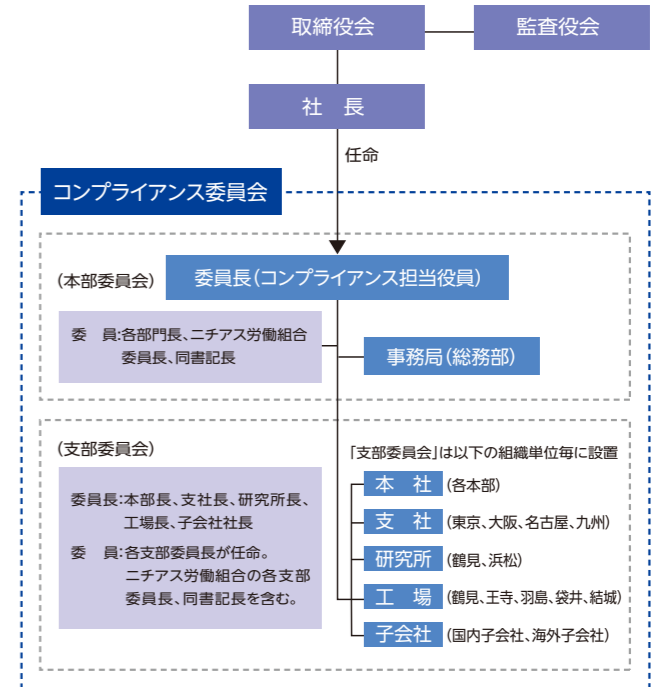
コンプライアンス活動

当社グループは、企業経営を行ううえで、また社会の中で活動する一員として、多くのステークホルダーの皆さまと良好な関係を構築できるよう、法令・定款の順守はもとより、社会の良識、常識を踏まえたコンプライアンス活動に取り組んでいます。

活動の基盤は、毎月開催されるコンプライアンス本部委員会と3カ月に一度開催される事業場ごとのコンプライアンス支部委員会にあり、コンプライアンス違反につながるかねない行為の根絶を図っています。

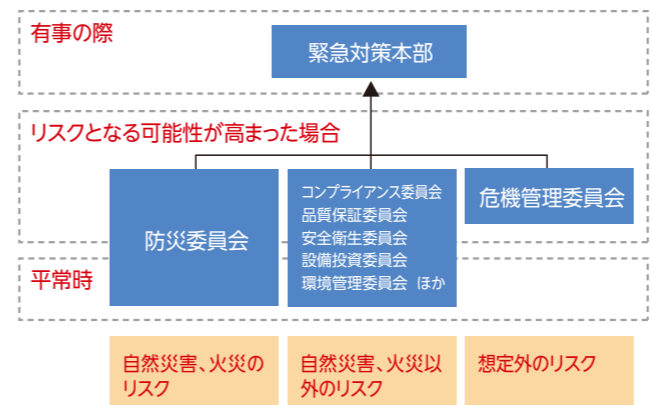
2016年度は、定点観測という観点からおおむね3年に一度実施している従業員全員を対象としたアンケートを実施いたしました。また、階層別研修などを通じた教育や、通報窓口としてのコンプライアンスカウンターの啓発ポスターを掲示することに加え、社内ネットに「コンプライアンスポータルサイト」を設け、従業員全員に啓発資料を提供するなど、従業員の意識向上と、通報者が情報提供をしやすい開かれた体制づくりを積極的に推進しています。

そのほかにも、第三者機関による「総合通報窓口」も開設し、より透明性の高い体制のなかで、コンプライアンス経営を実践できるよう努めています。



リスクマネジメント体制

「断つ・保つ」の技術を基盤とした製品・サービスを安定供給することを社会的使命とし、リスクマネジメントの実践を通じて事業の存続・安定的発展を確保しています。経営上の重大リスクに直面した際には、緊急対策本部を設置し、全社一丸で即応できる体制を整えています。



知的財産の保護

当社グループでは、事業を展開していくうえで知的財産(知財)を重要なものとして位置付けています。そのため、新製品開発や新規研究で創出した技術については、権利取得を積極的に推進し、技術の保護に努めています。新製品発売時には他者の知財権を尊重し、権利侵害がないよう適宜調査・確認を実施し、他者からの権利侵害については適切に対応しています。また、模倣品調査を適宜おこない、模倣品発見時には適切に対応することで製品ブランド価値の維持・向上および利用者の安全確保に努めています。

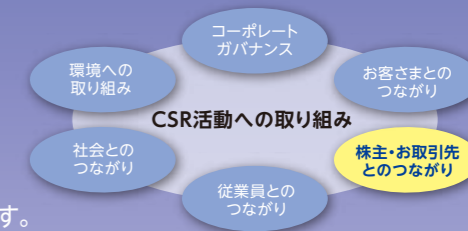
お客さまとのつながり

ニチアスグループは、お客さまにとって安全・安心な製品の提供、および、お客さまに役立つ製品・サービスの提供を推進しています。



株主・お取引先とのつながり

ニチアスグループは、透明性、公正性、効率性を重視した経営をおこなうとともに、財務情報については、迅速かつ適切に開示しています。また、お取引先に対しては、公平性を重視し、法令を順守した公正な取引をおこなっています。



安全・安心な製品の提供

●お客さまに信頼される品質への取り組み

お客さまに安心して使っていただける製品を継続的に提供するために、リスク管理を強化し、不具合を未然に防ぐために、「開発」「技術」「製造」「品証」「環境」部門が一体となって、品質面、安全性、環境面などあらゆる視点で、工程での品質の作り込み条件、作業手順、管理の妥当性を厳しく審査しています。

●生産性向上に向けた人材の育成

お客さまの立場に立って考え、製品の品質維持・向上を図ることができる人材を育成するために、「品質アカデミー」などさまざまな形の教育活動に取り組んでいます。なかでも、NKK(ニチアス改善活動)では、各国で働くニチアスグループのメンバーがチームを組んで、「ものづくり改善」「ものづくり進化」「業務改善」「ビジネス展開」をキーワードに「現場力の向上」に取り組んでいます。年に1度開

催される「オールニチアスNKK世界大会」では、世界中から選ばれた優秀チームがその成果を披露し、その模様は国内外の事業場にもライブ配信され、活動を通じてメンバーの成長や交流を支援しています(詳細を25、26ページに掲載)。

●マネジメントシステム体制

当社では約120年の歴史で培ってきた固有の品質マネジメントシステムを運用しています。さらに、1996年には羽島工場がISO9002(当時)を取得したのを皮切りに、各製造事業場でISO9001、14001認証の取得を推進し、現在では国内外の製造工場や製造子会社など多数の事業場にて認証を取得しています。また、製品の公的認証取得においては、専門の審査部門を置き、マネジメント体制の強化を進めています。

お客さまのニーズに合わせた製品・サービスの提供

●GASKET工房

石油精製・化学プラント工場などの定期修理現場では、当社のがasket加工品が緊急で必要になることがあります。このようなお客さまからの緊急のご要望にお応えするため、お客さまの現場に常駐し、その場で加工が可能な移動式設備「GASKET工房」を2014年5月から稼働しました。2016年度は例年の千葉県市原地区、三重県四日市地区に加え北海道、大阪、山口地区と定期修理期間中のお客さま構内常駐の範囲を広げました。また、引き続き全国各地のプラント工場を回り、工房にモニターを搭載し、会社紹介のDVDを流したりがasket締付体験としてその締付状態を映す、という新たな機能も始めました。お客さまの研修現場にも引き続き出動し、皆さまからご好評をいただいています。



お客さまの構内で活躍するGASKET工房

●BCP(事業継続計画)への対応

当社グループは幅広い産業にわたる製品・サービスを提供しています。したがって製品供給が滞ることなく、継続的に事業活動を行っていくためのBCP対策は極めて重要な経営課題です。災害発生時に製品供給が途絶えた場合のお客さまへの影響度合い、市場での重要性、他社製品も含んだ代替品への切り換えの可能性などを勘案し、対策が必要な製品の優先順位をつけ、対策を確実に実施することで、製品供給の確保に努めています。また、災害発生時、企業活動を支える従業員の安全確保も重要な課題です。この2点をBCP対策の基本課題として、各種対策に取り組んでいます。



製造拠点の分散化事例
マレーシアへ移管した自動車部品「メタコート」の製造工場



2013年、耐震性、非常時の電源確保への対策が強化されたビルへ本社を移転

株主・投資家とのつながり

●IR活動

当社グループでは、株主・投資家のみなさまからのご意見を真摯に受け止め、経営に活かしていくことが重要との認識から、担当部署として、IRチームを設置し、株主・投資家のみなさまとのコミュニケーションの充実に努めています。例えば、アナリスト・機関投資家向け決算説明会や工場見学会を開催しているほか、日常的なミーティングや電話会議、証券会社主催のカンファレンスへの参加などもおこなっており、2016年度は延べ131件のミーティングをおこないました。こうしたアナリスト・機関投資家との対話を通じて得られたご意見については、定期的にIR担当より社内へフィードバックされ、経営・事業活動の改善に役立てています。引き続き、国内外の株主・投資家とのコミュニケーションを強化し、幅広い株主層の形成に努めていきます。

●アナリスト・機関投資家向け決算説明会の開催

アナリスト・機関投資家との適時・適切なコミュニケーションを図るため、期末決算および第2四半期決算の発表時に決算説明会を開催しています。決算説明会では経営方針、経営戦略、事業概要、財務情報を説明するとともに、経営幹部と投資家との対話にも積極的に取り組んでいます。2016年度は、2回の説明会で計138人に出席いただきました。今後も財務情報だけでなく、環境・社会・ガバナンスなどの非財務情報に関する対話についても積極的に取り組んでいきます。



決算説明会

お取引先とのつながり

●取引に関する方針

当社は、お客さまへの供給責任を果たすことを重要な企業評価基準ととらえ、起こり得る大規模自然災害が当社の生産へ与える影響を最小限にとどめるための対策の一つとして、原材料のBCP対策を進めています。具体的には、各サプライチェーンのBCP対策状況を把握し、必要に応じて改善を求めています。なお、万一サプライチェーンだけでの対策が難しいと判断したときは、当社の原材料・半製品・完成品の在庫を積み増しすることでBCP対策を進めています。

●独占禁止法・下請法順守への取り組み

当社グループは、CSR活動の一環として、独占禁止法および下請法の研修に力を入れています。毎年、新入社員や新任管理職を対象とした研修会などに、独占禁止法・下請法順守に関するプログラムを盛り込んで実施しています。また、各支社および工場ならびに子会社の担当者に対し、下請法に関する実務面の説明会を適宜実施しています。2016年度は、鶴見・浜松研究所において下請法に関する研修会を開催しました。さらに、役員および従業員を対象に、国内の独占禁止法のみならず海外の競争法に関する情報発信をおこないました。これらの活動を通じ、当社グループは法令順守の徹底を図っています。



独占禁止法・下請法の従業員研修

従業員とのつながり

ニチアスグループは、安心して働くことのできる職場づくりに取り組んでいます。
また、ダイバーシティの推進やワークライフバランスを重視し、
仕事と家庭を両立してキャリアを積める各種制度の充実を図っています。

労働安全衛生

●安全・衛生への取り組み

安全衛生最優先の大原則のもと、安全衛生基本方針に基づき、安全、衛生、健康に関する活動に取り組み、安全な製造設備への改善、KYおよびリスクアセスメントの実施、作業者への安全・衛生教育などを実施しています。災害が発生してから取り組むのではなく、リスクを先取りして未然に対応すべく、継続的な活動を進めています。

2016年度は、「いつでもどこでも、安全最優先」のスローガンのもと、「職長・監督者が作業場、現場のキーマンとなり安全活動を推進する」を、製造・工事部門の共通重点実施事項として活動しました。

COLUMN

メタコート工業奈良工場 『見える』安全活動コンクール」入選

メタコート工業奈良工場が、厚生労働省主催の平成28年度『見える』安全活動コンクールで優良事例に選出されました。活動内容は「マシニング切削くず排出コンペアーの見える化」です。カバーを透明のアクリル樹脂製に変更することで、危険源である動力伝達部を視認でき、その結果、作業者が危険源に触れることなく作業できるようになりました。

優良事例
マシニング切削くず排出
コンペアーの見える化



VOICE

メタコート工業奈良工場
坂野 文則



以前は「見える化」活動として、事業場内には多量な掲示物であふれていましたが、「活きた掲示」がほとんどありませんでした。以降「掲示による見える化」ではなく、目に見えて活きた改善を意識して取り組み、今回、安全小集団活動の改善事例に応募しました。今後もコツコツと「見える・活きる」活動を進め、安全で快適な職場づくりを推進していきます。

2016年度 ニチアス全国安全週間安全標語
金賞 王寺工場／粉川 博樹
元から「断とう」災害リスク みんなで「保とう」無災害
全社一丸「断つ・保つ」

ダイバーシティへの取り組み

●女性従業員活躍推進の取り組み

当社では女性活躍推進法に基づき、「2020年3月31日までに全従業員に占める女性従業員の比率を、現状の13%から15%にする」「毎年の新卒採用者に占める女性の比率を20%以上にする」という目標を掲げて採用活動を行っています。それにとめない女性管理職や管理職になる前の女性従業員に対しての研修を実施する予定で、女性の活躍を促進し、安心して働ける職場づくりに努めています。また制度的にも「勤務地希望制度」「離職者再雇用制度」などの導入により、女性が結婚・出産・育児などのライフイベントを迎えた時でも、キャリアを積めるようにしています。

ワークライフバランス

●介護・子育て支援

当社では従業員が安心して介護に専念できるよう、育児・介護休業法の定める条項以上に手厚い制度を備えています。たとえば「介護休業が複数回取得可能」「会社が時間外勤務を指示できないようにさせる」などの制度です。また育児については、育児休業期間を1年6カ月まで取得でき、勤務復帰後も子育てに専念できるよう、小学校3年生までの子どもをもつ親については、時差勤務や勤務時間の短縮ができる制度も導入しており、みなさん利用しています。

●子ども手当導入

当社では少子高齢化問題への対応として、子育て世代への支援を厚くし、女性の就業促進への積極的な取り組み策を検討しました。

労働組合と約1年間協議を進めた結果、2016年度に従前から支給していた家族手当を見直して、お子さんのいる従業員に対して支給する子ども手当を新設・導入しました。

●時間単位の有給休暇

当社では2010年に時間単位の年次有給休暇を取り入れ、多くの従業員から支持を得ています。現在までに全社で63%の従業員が時間単位の年次有給休暇の取得経験があり、通院や役所関連の手続き、お子さんの学校行事への参加など、有意義に活用されています。



COLUMN : こども参観日レポート

従業員と家族とのつながりを深める「こども参観日」ニチアスグループ全国に拡大中

当社グループは会社と家族のつながりを大切に、従業員の子どもに親の仕事への理解を深め、家庭内でのコミュニケーションを向上させる活動を推進しています。

その一環として、従業員の子どもたちに父母の職場見学や、仕事を体験してもらう「こども参観日」を、2015年度から実施しています。この活動を通じ、子どもの職業観を育み、家庭教育の充実や子育てを支援しています。

2016年度では、初めて支社・グループ会社でも開催し、従業員と家族とニチアスとのつながりを深める取り組みは全国に拡大しています。

本社

2回目となる本社では、15名の子どもたちが参加しました。LNGタンクなどに使われるウレタンフォームの保温材を実際に作ってみる実験では、素材が発泡するところを観察し、興味津々のようでした。



サーモグラフィを使った実験



武井社長と記念撮影

鶴見研究所

鶴見研究所では、小学生9名の従業員の子どもたちが参加しました。ニチアスがどのような会社なのかを勉強し、最新の機器を使ってミクロの世界を観察したり液体窒素を使った実験をおこないました。



ミクロの世界を観察



研究所の皆さんと記念撮影

九州支社

初の営業拠点での開催となった九州支社では、14名の従業員の子どもたちが参加しました。

当社製品を使用した断熱性能を実感する実験やオフィス見学などをおこないました。



断熱材の実験



オフィス見学

王寺工場

王寺工場では、従業員の家族を対象とした工場見学会を実施しました。普段見ることのない大掛かりな設備に驚いたようでした。

また、同時に開催したバーベキュー大会で、従業員と家族の親睦を深めました。



工場見学会

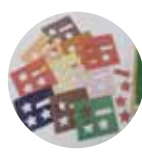


竜田工業

ニチアスグループ企業で初の開催となった竜田工業では、環境活動への取り組みの観点から、従業員の家族に職場環境を理解してもらうため、工場見学会を実施し、16名の従業員の子どもたちが参加しました。

普段お父さん・お母さんが働いている職場環境を体験したり、どういっ製品を作っていて、どのように世の中で役立っているのかについて勉強しました。

また、実際に工場で使用しているプレス機を使って色とりどりのゴム製のシートを星形に打ち抜いて、自分だけのかわいいアクセサリを作りました。



プレス機を使ったアクセサリ作り



社会とのつながり

ニチアスグループは、支援活動や助成を通じた社会への貢献を意欲的に推進しています。また、事業所がある地域社会とのコミュニケーションづくりを大切にしています。



社会貢献活動

● さまざまな分野に対する寄付・助成

当社は、CSR活動の一環として研究開発や災害支援などの見地から、さまざまな寄付・助成を行っています。2016年度は総額で約4,900万円の寄付・助成を行いました。

● 寄付・支援活動

当社は、日本赤十字社や各都道府県の共同募金会を経由した寄付・支援活動を行っています。2016年度は熊本地震に対する義捐金や台風10号の被害に対する義捐金、エフアドル地震救援金などの寄付をおこないました。今後もこのような活動を継続していきます。

● 障がい者雇用

当社では、ハローワークと随時連絡を取りながら、障がい者の採用をおこなっています。また、東京都立の職業訓練高校からの新卒生の採用にも取り組んでいます。

● 学術研究に対する助成

当社は、日本の研究・開発機関に貢献すべく、研究開発に助

成をおこなっています。助成先は、半導体関連、有機合成、セラミックス、分析・評価技術など最先端技術を中心に、幅広い分野にわたっています。また、海外の大学にも支援を広げています。2016年度は、総額約3,300万円の助成をしています。今後とも、有望と思われる分野、機関に助成を続けたいと考えています。

● インドネシアにおける快適・省エネ住宅研究に関する助成

当社は住宅断熱研究において以前より親交のある広島大学久保田准教授の『インドネシアの中間層向け住宅の快適・省エネ化』を新たに支援することとなりました。今回のプロジェクトは、インドネシアの住環境の研究機関であるPuskim (Pusat Penelitian dan Pengembangan Permukiman)、インドネシアの大学および久保田准教授が共同で行い、中間層の住宅環境の快適と省エネルギーを両立するための研究で、インドネシア住環境改善の貢献を目指します。支援は2016年度から4年間となり、総額7,200万円を予定しています。

ニチアスグループ各拠点の地域貢献活動

各事業所での地域貢献活動への取り組み

事業所	取り組み内容
仙台支店	発電所周り清掃[新地共同火力事務所]／海岸清掃[新仙台火力事務所]／工場周り清掃[仙台製油所事務所]／交通安全週間への参加、近隣の清掃[女川事務所]
福島営業所	地域美化活動への参加(いわき市春の清掃デー／いわき市秋の清掃デー)
日立営業所	営業所周辺清掃
結城工場	地域清掃活動への参加(下妻市市民清掃デー)
千葉支店	献血運動への参加
本社	中央区まちかどクリーンデーへの参加
東京支社	全国交通安全街頭活動への参加、ゼロエミッション事業所見学会参加
鶴見工場	地域活動への参加(鶴見区安全運転管理者会)、地域美化活動への参加(鶴見川クリーンキャンペーン)
新潟営業所	地元小学生を対象としたスキー場でのスキー授業引率指導
浜松研究所	地域美化活動への参加(独身寮近隣の公園清掃)
若狭支店(美浜、高浜、大飯事務所)	地域美化活動への参加(三方五湖一斉清掃活動／クリーンアップふくい大作戦in美浜 など)、地域マラソン大会の運営協力
羽島工場	工場外周清掃、長良川への稚魚放流活動へ参加、地蔵盆の開催(下記参照)
袋井工場	地元花火大会への寄付およびボランティア活動、工場外周清掃
豊田支店	交通安全街頭指導
四日市支店	地域美化活動への参加(鈴鹿川クリーン作戦)
大阪支社	事務所周辺美化活動
王寺工場	地域美化活動への参加(王寺町CCC活動／大和川クリーン大作戦(下記参照) など)、地域交通安全指導への参加(王寺町南安全連絡協議会／春・秋の交通安全県民運動 など)、王寺町広報活動への協力(おうじ雪丸フェスinナイト／王寺BBQ雪丸コン など)、献血活動の実施、地域餅つき大会の運営協力
郡山分工場	地域美化活動への参加(花いっぱい運動／大和川クリーン大作戦(下記参照) など)、昭和工業団地の地域活性化のアピール広報員として活動(大和夏祭への寄付／地元自治会との意見交換会 など)、献血活動の実施
長崎支店	西城山地区夏祭り大会への参加
福島ニチアス	地元祭りへの備品の貸し出し、地域美化活動への参加(新地町観光協会主催花いっぱい運動／国道6号線沿い清掃)
電田工業(栃木事業所)	幼児交通安全啓発ポスターへの協賛
東京マテリアル	地域警察への活動協力(設置防犯カメラの画像提供)
大田化成	工場外周清掃、町内掲示スペースの提供
ニチアスセラテック	工場外周清掃、飯綱町空き缶拾いボランティアへの参加、セタライトダウンへの参加
電田工業(飯田事業所)	地域美化活動への参加(小園自治会環境整備／小園自治会河川清掃)、伴野工業団地企業見学会の実施、地元夏祭りの運営協力
ニチアスシールテック	工場外周清掃
日本ロックワール(大阪支社)	事務所花壇手入れによる美化活動を実施
堺ニチアス	地域美化活動への参加(三宝地区自治連合町会・三宝地区環境安全協議会合同美化活動／大和川クリーン大作戦(下記参照))、工場外周清掃
国分工業	地域美化活動への参加(大和川クリーン大作戦(下記参照)／石川土手清掃)
電田工業	地域美化活動への参加(平成28年度橋西北自治会主催美化清掃「溝掃除、周辺草刈」／大和川クリーン大作戦(下記参照)など)、地元秋祭りへの協力(飯沼自治会秋祭の太鼓台設置場所提供・担ぎ手として参加・休憩場所提供)
メタコート工業(奈良工場)	地域美化活動への参加(工場外周清掃、草刈り／大和川クリーン大作戦(下記参照))、交通安全県民運動への参加
西日本ニチアス	工場外周清掃
メタコート工業(岡山工場)	地域美化活動への参加、地域行事への参加(夏祭りにみつ／公民館祭り)、地域交通安全運動への参加
ニチアス九州販売	事務所花壇の手入れによる美化活動を実施
熊本ニチアス	周辺工業団地での交通安全活動(通学路の交通指導／通行実態調査)、工業団地周辺美化活動への参加

海外拠点での社会貢献活動

ニチアスグループは世界各国に多数の生産・販売拠点を展開しています。各国の地域や従業員との調和を図りながら、ともに発展していけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

マレーシア NICHIAS FGS SDN. BHD.

- ・学校、宗教施設などに対する建築用パネルの寄付
- ・保全森(FGSの森)の手入れ・植林
- ・献血活動

建築用パネルの寄付



マレーシア NICHIAS SOUTHEAST ASIA SDN. BHD.

- ・JACTIM Foundation (日本人商工会議所)を通しての寄付

マレーシア NT RUBBER-SEALS SDN. BHD.

- ・インターンシップ学生に対する奨学金
- ・スルタナ・パヒヤ・ケダ病院への献血協力
- ・保全森(FGSの森)の手入れ・植林

メキシコ NAX MFG, S.A. de C.V.

- ・従業員家族を対象とした工場見学会を開催
- ・ネオンマラソン大会(チャリティラン)への参加
- ・工場周辺への植樹活動

ベトナム NICHIAS HAIPHONG CO., LTD.

- ・養護施設の方を対象としたギフトフェスティバルおよび運動会の開催

インド NICHIAS INDUSTRIAL PRODUCTS PRIVATE LTD.

- ・世界環境デーへの参加として、工場周りに鳥の巣を設置(工場軒下への巣の設置を防ぐため)

インドネシア PT. NICHIAS SUNIJAYA

- ・各種寄付(ルパラン(大祭)、インドネシア独立記念日、ムハンマド聖誕祭、近隣モスクなど)

タイ NICHIAS (THAILAND) CO., LTD.

- ・各種支援団体(ミラー財団、女性の地位向上協会、身体障害者協会)への寄付または各種寄贈(衣類、電化製品など)
- ・従業員による工場外周の清掃



ミラー財団への寄贈

タイ THAI-NICHIAS ENGINEERING CO., LTD.

- ・近隣小学校への寄付、祭事への炊き出しなどのボランティア活動
- ・国立公園(マングローブ施設)の清掃
- ・タイ東北地方への寄付、葉・古着などの寄贈

● 羽島工場 地蔵盆を開催

羽島工場では、工場沿いに北を向いた珍しい「北向地蔵」がまつられており、毎年8月に地蔵盆を開催しています。提灯を飾り、お菓子などのお供え物をして、地域の多くの方にお参りいただきました。特に子どもたちは毎年楽しみにしてくれています。羽島工場はこれからも地域の皆さまとともに歩んでいきます。



● 王寺工場、郡山分工場、電田工業、メタコート工業、国分工業、堺ニチアス 大和川クリーン大作戦

奈良県から大阪湾まで流れる大和川。当社グループはこの大和川流域に多数の製造事業場を有しています。流域上流の郡山分工場から河口に位置する堺ニチアスまで、工場付近の河川清掃を定期的に行っています。グループ一丸となって地域環境の保全に取り組んでいます。



環境への取り組み

ニチアスグループの製品は、断熱、流体の漏れ防止、遮音、耐食などの機能により、省エネルギー、省資源、安全衛生・環境保全など、お客さまの「環境」に関するニーズに応え、お客さまの使用ステージにおいて環境負荷の低減を実現しています。ニチアスグループは、つねに「環境」を意識して活動しています。



ニチアス環境憲章

当社では環境改善活動を全社的なものにするべく、2001年4月に当社の環境方針となる「ニチアス環境憲章・環境行動指針」を制定しました。2017年4月には、環境に対する社会のニーズに合わせ、内容を変更しました。これらを実行すべく、製造部門では環境マネジメントシステムの統合認証取得による環境管理活動を推進しており、事業部門ではより環境負荷を低減した製品の開発をめざし、管理部門では活動をより全社的なものにするべく、システムの構築や環境教育の実施に取り組んでいます。

環境行動指針

ニチアス環境憲章に従い、以下の項目を継続的に活動し、改善を図っていきます。

1. コンプライアンスの徹底

法令順守はもとより、自主基準を設定し、社会的責任を果たします。

2. 環境負荷低減製品の開発

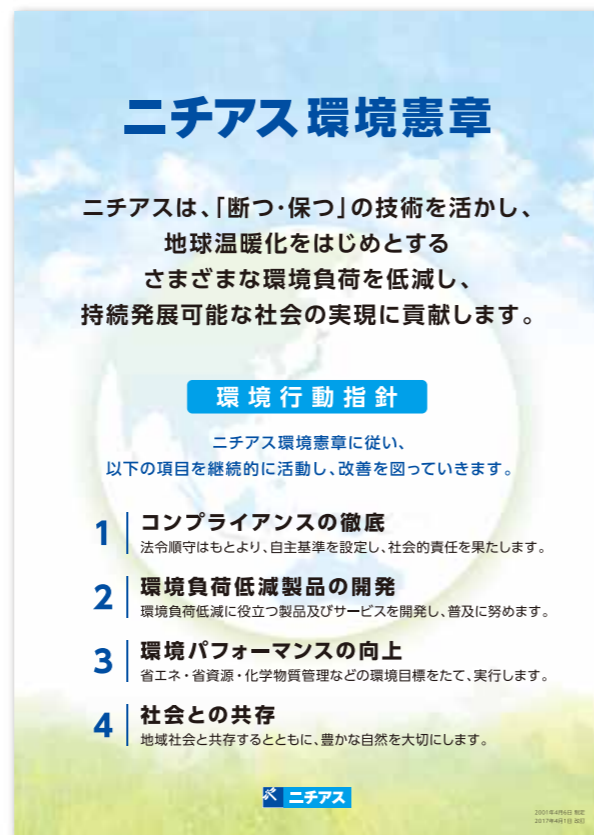
環境負荷低減に役立つ製品及びサービスを開発し、普及に努めます。

3. 環境パフォーマンスの向上

省エネ・省資源・化学物質管理などの環境目標をたて、実行します。

4. 社会との共存

地域社会と共存するとともに、豊かな自然を大切にします。



環境活動の推進体制

当社グループでは、1968年に現場改善分科会を設置し早期から環境対策を行ってきました。1990年代に入ると工場からの環境負荷低減はもとより、コンプライアンス徹底のための環境レベル診断、地域住民目線で工場周囲をチェックする環境パトロールなど、独自の方法で環境問題へ取り組み、リスクを低減してきました。このような対策の歴史から、2011年度より環境経営への転換を目的として、環境管理推進体制の整備を進めています。

環境に配慮した活動を全社方針のもとで実現するため「全社環境委員会」を設置し、同委員会のもとに「管理」「製品」「工場」の3部会を置く体制としています。工場部会では、ISO14001のグループ会社統合取得を推進しています。2020年度的全製造事業場統合を目指し、2016年度は2社追加しました。

環境管理推進体制図



ISO14001などマネジメントシステムの認証取得状況
<http://www.nichias.co.jp/environment/management/>

環境管理活動と目標

「ニチアス環境憲章」に基づき、環境中期方針(2016年度～2020年度)を新たに策定しました。環境中期方針では「コンプライアンスの徹底」「環境負荷低減製品の開発」「環境パフォーマンスの向上」「社会との共存」の4課題を設定して活動しています。

環境中期方針に基づく2016年の目標と実績

	環境中期目標	2016年度目標	2016年度実績	評価	2017年度目標	
1 コンプライアンスの徹底	環境負荷や法的不備が変化点でわかる仕組みの構築	全事業場における環境法規の順守徹底	外部審査、社内環境部門による環境監査にて大きな法違反なし、法順守を維持できる仕組みが継続されている	●	全事業場における環境法規の順守徹底の継続	
	製品環境法規の順守徹底	毒劇物、危険物輸送関連規程の制定と対応	毒劇物取締法、消防法、国連危険物に関する製品の取り扱いから販売・輸送までの手順が整備され運用中	●	製品環境法規の順守徹底の継続 継続的な毒劇物製品扱い者、危険物輸送担当者への教育	
	SDSの確実な提出	SDSの確実な提出 法律に基づいたラベル表示の順守	SDS新規作成45件 改訂89件 2016年6月労働安全衛生法によるラベル表示義務の拡大に対応完了	●	SDS作成と改訂の継続と確実な提出 ラベル表示の順守継続	
	全従業員への環境教育の実施	全従業員への定期環境教育の推進・維持の継続	全社員向けeラーニング教育実施済 環境ボランティア活動の実行	全社員向けeラーニング教育実施済 環境ボランティア活動の実行	●	全従業員への定期環境教育の推進・維持の継続
		eラーニングによる全社員への環境教育の実施継続	eラーニングによる全社員への環境教育の実施 受講率 86%	eラーニングによる部門別環境教育の実施 受講率 86%	▲	eラーニングによる全社員への環境教育の実施継続 受講率目標 95%
	社内環境情報通信の発行継続	社内環境情報通信の発行継続	2016年度安全衛生環境通信を11回発行(1回は8、9月合併号)	●	安全衛生環境通信の発行継続	
	環境委員会 工場・製品・管理部会の充実	全社環境管理体制の維持推進	各部会を年2回開催	●	工場・製品・管理部会それぞれの年2回開催の継続	
PCB含有機器の適切な処理の推進	PCB含有機器の調査推進と適切な処理	低濃度機器21台処理 PCB含有機器の調査を継続	●	PCB含有機器の調査推進と適切な処理継続		
2 製品環境負荷低減	未規制化学物質への自主的対応	製品環境アセスメント、製品含有物質管理の徹底	三酸化アンチモン(2017年6月特化則施行)について対応完了	●	製品環境アセスメント、製品含有物質管理の徹底継続 未規制化学物質への自主的対応の継続	
	顧客グリーン調達への対応	顧客グリーン調達への対応体制構築 原材料グリーン調達の定期更新	顧客からのグリーン調達調査は事業部で対応できる体制確立 2016年度グリーン調達結果 新規:153件(2015年度:145件) 更新:275件(2015年度:73件)	●	顧客グリーン調達への対応継続 原材料グリーン調達の定期更新の継続	
3 環境パフォーマンスの向上	産業廃棄物排出の削減	産業廃棄物排出量生産高原単位を2016年度末に2015年度比1%削減	君津ロックワールでの大幅な産業廃棄物削減により2015年度比34%削減	●	産業廃棄物排出量生産高原単位を2016年度末に2015年度比5%削減(目標を修正)	
	原油換算エネルギーの削減	原油換算エネルギー生産高原単位を2016年度末に2015年度比1%削減	全体的な生産増加によるエネルギー効率向上で2015年度比3%削減	●	原油換算エネルギー生産高原単位を2020年度末までに2015年度比5%削減(必達目標) 7.5%削減(努力目標:COP21目標に準拠)	
	国内製造拠点のISO14001取得率向上	技術本部・工場統合 ISO14001の認証の更新 2016年度末 2製造子会社を統合グループへ追加	2016年10月統合グループとして初の更新審査受審、認証継続済 堺ニチアス、大田化成2社を統合ISO14001へ追加	●	2017年度 ISO14001を2015年度版へ移行完了 国内製造拠点のISO14001取得率向上 2015年度末13事業所→2020年度末21事業所	
4 社会との共存	情報公開の維持・推進	CSRレポートの発行継続	2016年7月CSRレポートを発行	●	2017年CSRレポートの発行	
	事業場の美観整備	工場的美観整備	王寺工場の整備、鶴見工場再編の計画立案着手済	●	工場整備計画の継続実施	
	再発苦情の撲滅	再発苦情撲滅のための方策展開 再発環境苦情 ゼロ	環境会議等で再発防止策の有効性と水平展開を実施 環境苦情 6件発生、 内再発2件(騒音1件、悪臭1件)	×	再発苦情撲滅のための方策展開の継続 再発環境苦情 ゼロ	



環境パフォーマンス

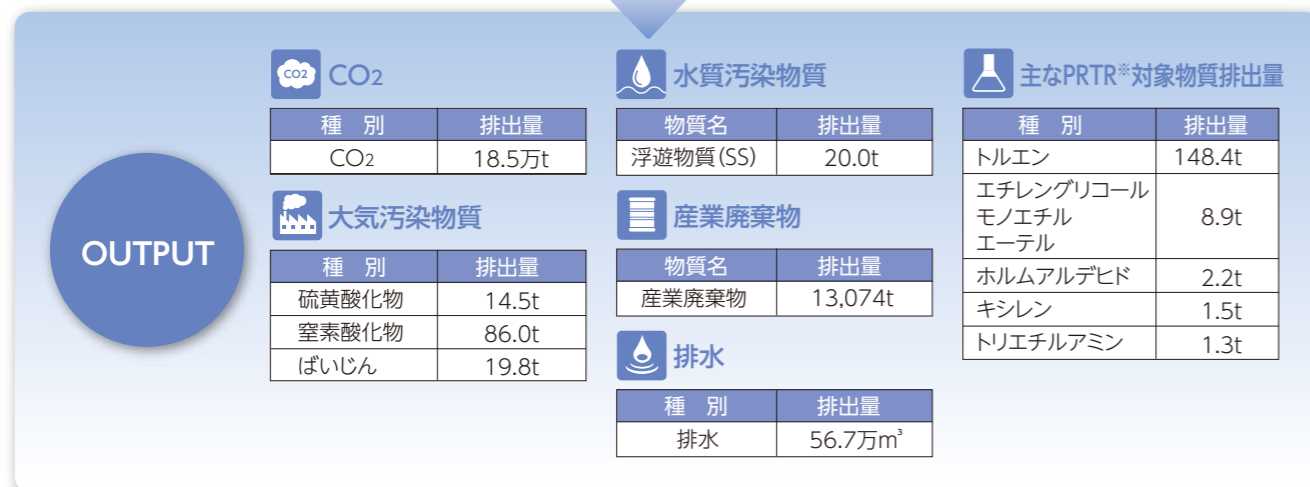
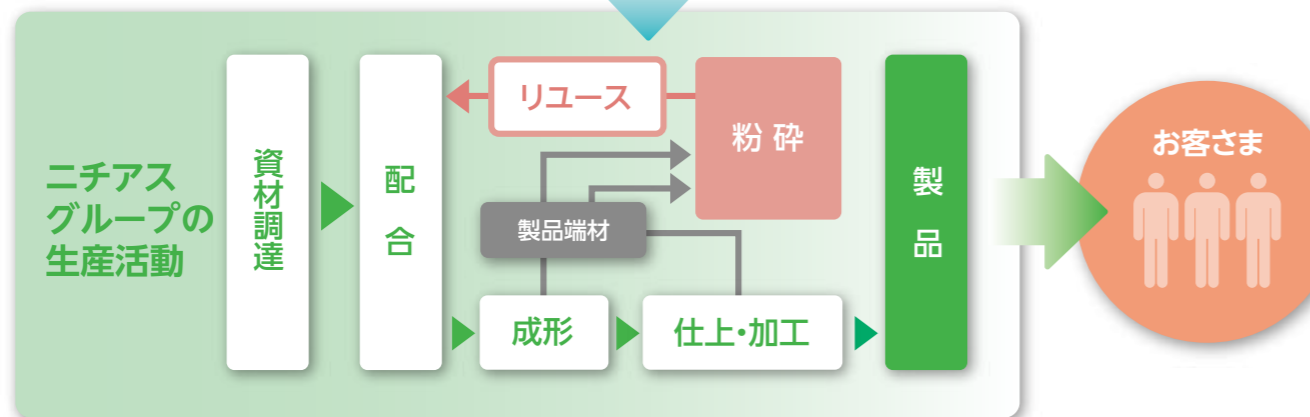
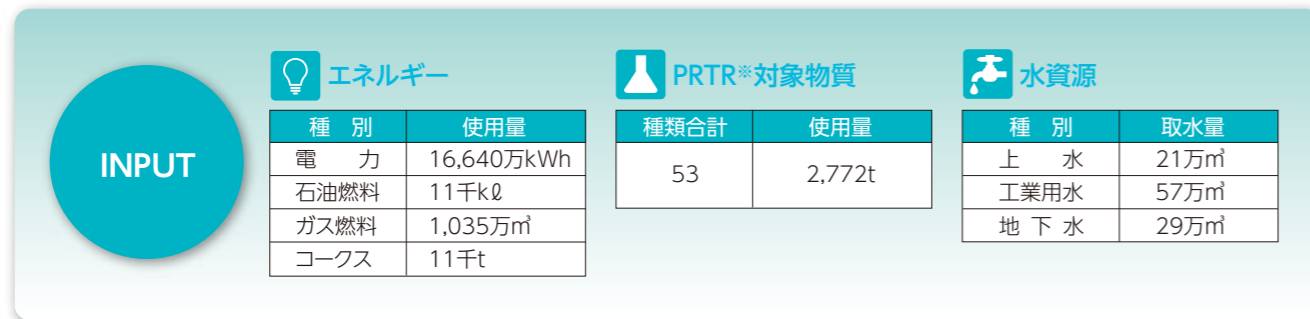
持続可能な社会の構築に向けて環境負荷物質削減への取り組みを強化しています。

当社グループでは2015年度より環境活動範囲を拡大し、本レポートより君津ロックワールのデータを追加しています。

ニチアスグループの環境負荷全体像

当社グループは、事業活動において投入するエネルギー量や化学物質・水資源などの物質量と、排出するCO₂量や産業廃棄物量などを把握するとともにそれらの削減に向けた

具体的な目標を設定し、PDCAサイクルを回すことで環境負荷の削減に取り組んでいます。



※特定化学物質の環境への排出量の把握等及管理の改善の促進に関する法律

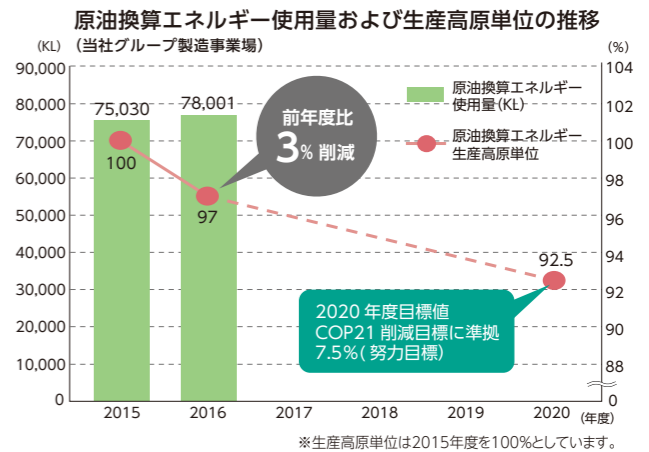
エネルギーの効率利用実績

当社グループは2016年度からの環境中期計画では2020年度末の5年間で2015年度比原油換算エネルギー生産高原単位5%減を必達目標とし、さらに努力目標を加えた7.5%の削減活動を進めています。これはCOP21の削減目標を見すえたものになっています。

2016年度は活発な生産活動による生産量増加に支えられ、原油換算エネルギー生産高原単位は良化し、2015年度比では3%削減となりました。また、2016年度のCO₂排出量は、2015年度に比べ18.5万トンと微増していますが、CO₂排出量原単位では5%の削減となります。

当社でも、再生可能エネルギーの利用についての取り組みをスタートさせており、2015年9月に袋井工場事務所屋上に設置した太陽光発電設備は、2016年度は事務所電力の約90%をまかなう発電量となりました。

●エネルギー効率利用の取り組み目標
2020年度末までに原油換算エネルギー生産高原単位
2015年度比5%削減
2015年度比7.5%削減(努力目標) → 2016年度実績
2015年度比3%削減



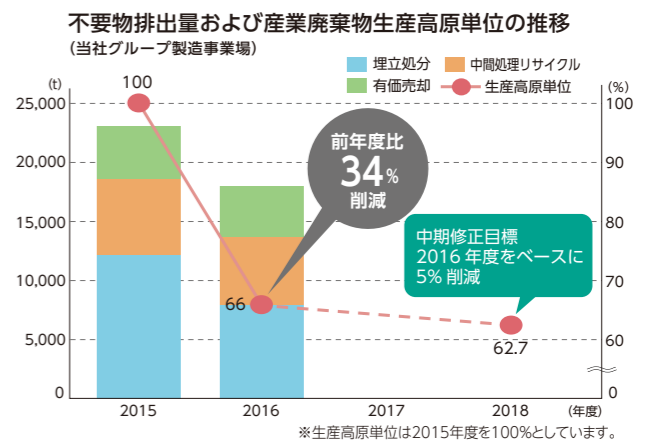
不要物・産業廃棄物排出実績

2016年度の事業活動における不要物^{注1}の排出量は総量17,817トンで前年度比5,736トンの減少しました。また、産業廃棄物の排出量は13,074トンで前年度比5,500トンの減少、排出量生産高原単位では前年度比34%の減少で大きく目標を達成しています。これは、2013年に立ち上がった君津ロックワール新工場で発生する廃棄物を製品品質をそこなくことなく再利用することがシステムの可能となったためです。そこで廃棄物削減の中期目標を見直し、2018年度に2016年度原単位の5%削減としました。(グラフ参照)

各拠点での不良低減活動、製造歩留まり改善、生産性向上などの活動を通じて、確実に不要物、産業廃棄物を減量させていく取り組みを引き続き継続していきます。なお、当社グループより排出される不要物から59%のものが再資源^{注2}として利用されています。

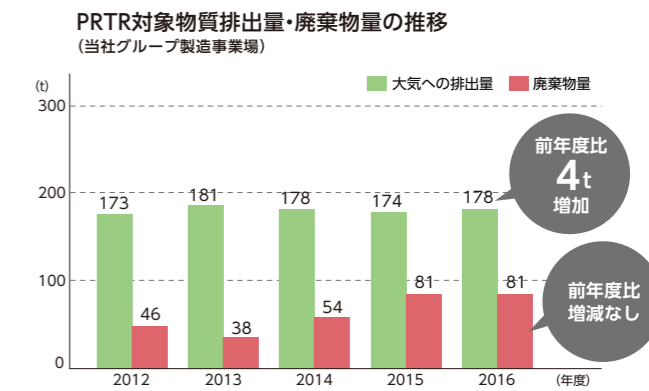
注1: グループから排出される有価売却物を含む廃棄物
注2: 最終処分(埋め立て)以外の中間処理、社内再生、有価売却されたものを再資源化と定義

●不要物・産業廃棄物削減の取り組み目標
2018年度末までに産業廃棄物排出量生産高原単位
2015年度比5%削減 → 2016年度実績
2015年度比34%削減



PRTR対象物質排出実績

2016年度の事業活動におけるPRTR対象物質の使用量は、2,772トンで、前年度から39トンの減少となりました。これは、生産工程での不良低減、生産性向上の改善効果によるPRTR対象物質投入量の減少によるものです。排出量ですが、大気への排出はここ5年間ほぼ横ばい、廃棄物としての排出も2年間変動がありません。各生産拠点では、すこしでも環境影響を減らすべく継続して化学物質取り扱い量の削減、PRTR対象物質を含まない洗浄剤や塗料への転換に取り組んでいます。



環境マネジメントシステム

さまざまな環境問題に積極的に取り組むとともに、環境憲章に基づいた環境経営の実現を目指していきます。

●環境リスクマネジメント

製品含有化学物質管理への取り組み

製品の開発設計から、調達、製造、販売までの各段階において、化学物質規制に対するコンプライアンスを徹底する取り組みを継続しています。2016年度も継続して「製品含有化学物質の管理体制」の運用を進めてきました。従来から発行していたSDS(安全データシート)や製品ラベルなどお客さまへの提供資料を同体制に連動して作成・管理ができる仕組みです。2016年6月に労働安全衛生法が改正され、当社の196製品に新たにラベル表示の義務が発生しましたが、これら製品ラベルは本仕組みにより的確に対応しています。

環境パトロール

地域社会との共生を目的として、当社グループでは1990年から環境パトロールを実施しています。これは従業員が事業場の周囲をパトロールし、「美観」「大気(粉じん・臭気)」「騒音・振動」「排水」の4つの項目を事業場の特性に合わせて確認する活動です。2016年度はグループ全体で延べ91回のパトロールを実施し、172件の不具合を摘出し、環境リスクを低減することができました。

外部からの指摘

2016年度は、製造事業場から発生する臭気や騒音についてグループ全体で6件の指摘を受けました(内、再発環境苦情は2件)。指摘事項のうち、騒音苦情は夜間に発生することが多いため、その時間帯に異常騒音を検出する監視機器の設置を進め、再発防止を図っています。指摘内容の対応経過や改善策は関係自治体へも報告、連絡しています。

環境啓発活動

2016年度も情報新聞「安全衛生環境通信」(月刊)の刊行を継続し、社内外の安全衛生環境情報を全従業員に発信してきました。

また、従業員一人ひとりの環境に対する意識を高めるため、地域へ協力する清掃活動を展開しています。

●環境監査体制

製造事業場では①製造事業場内での内部監査、②本社環境部門による監査、③外部審査機関による監査の3者による環境監査を実施しています。2016年度もISO14001工場統合認証継続活動のなかで事業場間相互内部監査を実施しています。なお、これらの監査の結果、敷地境界騒音の一部基準超過はあるものの重大な法令違反はありませんでした。

●環境会計

事業活動における環境保全設備投資金額^{注1}は402百万円(前年度比183百万円増)でグループ全体の設備投資額の4.1%にあたります。環境設備の運転コスト・メンテナンス費用・人件費などを集計した環境保全コスト^{注2}は439百万円(前年度比20百万円減)でした。これらのコストは、大気汚染、水質汚濁、悪臭などの公害防止、産業廃棄物処理、環境負荷監視、工場内の緑化・景観改善などにともなうものでした。

注1: 当社グループ全体を集計対象

注2: 当社製造工場のみを集計対象(グループ全体の集計は検討中)

環境保全設備投資金額(当社グループ全体/2016年度) (単位:百万円)

分類		金額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	176
	地球環境保全コスト	140
	資源循環コスト	53
管理活動コスト		33
合計		402

環境保全コスト(当社製造工場/2016年度) (単位:百万円)

分類		金額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	215
	地球環境保全コスト	14
	資源循環コスト	132
管理活動コスト		78
合計		439

●環境教育・啓発

環境教育活動

当社では全社員を対象とした職種別eラーニングによる環境教育を2013年から毎年実施しています。

主管製品が事業本部で異なるため、2016年度は各本部で学習する内容を設定し、たとえば住宅用断熱材販売を行う建材事業本部では省エネ法の理解を深める内容を勉強しました。



環境TOPICS：ニチアスグループの環境保全活動

循環型社会を目指して ロックウール製品のリサイクルを、初めてニチアスグループ内協働で実現

当社グループの主力であるロックウール製品は断熱性・保温性に優れ、お客さまのサイトで省エネルギーや二酸化炭素削減に貢献する製品です。

ロックウールは、鉄鋼スラグや天然岩石を高温で溶かし、遠心力などで吹き飛ばして繊維状にした人造鉱物繊維です。繊維化の過程で繊維にならなかったものや、製品の耳くずなどが多く排出され、『ごみ』として処理しなければならないことが大きな課題でした。『ごみ』とはいえ、製品となるロックウールと同じ化学成分のため、原料として再利用できないか検討に検討を加えました。その結果、粉砕したものに、セメントを加え、レンガのように固める（ブリック化）ことで、原材料としてリサイクル可能な技術を確認しました。（本件は平成26年度資源循環技術・システム表彰の経済産業省産業技術環境局長賞をいただいています。）

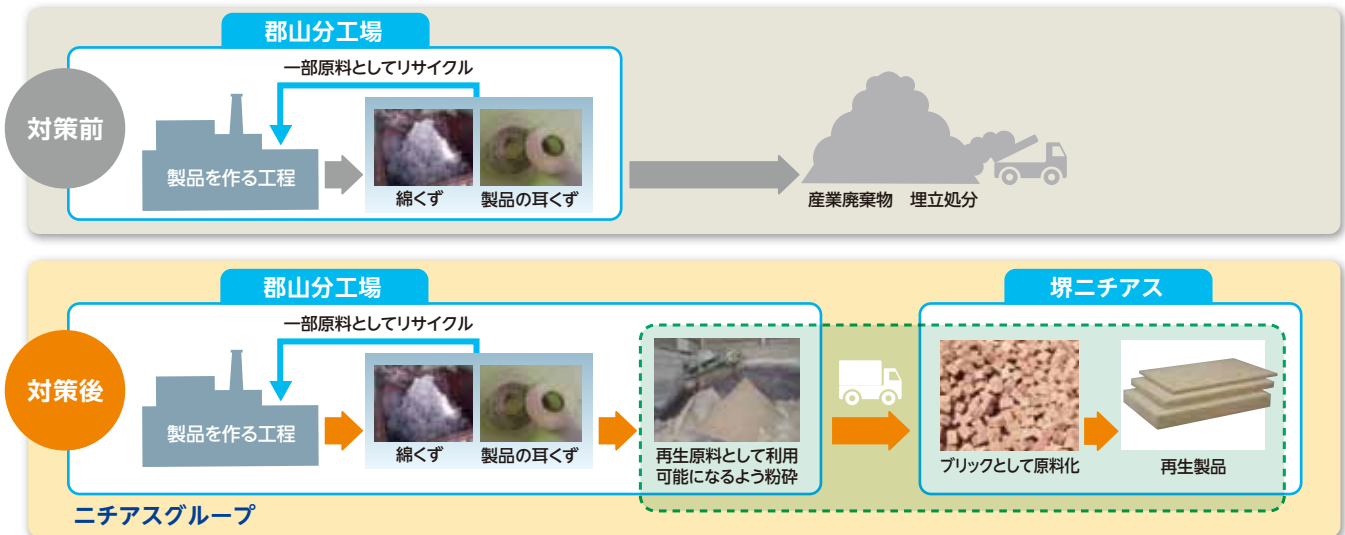
ニチアスグループでは、2000年から再利用を開始し、堺ニチアスでは、現在、ロックウールに関してはゼロエミッション（『ごみ』としての排出0）を達成しています。

一方ロックウール製のカバーを製造しているニチアス郡山分工場においてもリサイクルは推進していますが、製造方法の違いによりブリック化ができず、リサイクルできないロックウールくずは産業廃棄物として処分されていました。

今回、同じロックウール製品を製造している堺ニチアスで、郡山分工場で産業廃棄物として処分していたロックウールくずのリサイクルが可能かを検討しました。その結果、リサイクルしやすいよう分別、細かく粉砕することにより、堺ニチアスでのリサイクルが可能となりました。

2016年11月より取り組みを開始し、実績として約35t/月の産業廃棄物を削減。これは郡山分工場で発生する産業廃棄物全体の約24%にあたり、大きな効果をあげています。今後もニチアスグループとしてさらなる事業場間の連携を強め、全事業場のロックウールくずについてゼロエミッションを目指し、循環型社会に貢献していきます。

※ロックウールくずの郡山分工場から堺ニチアスへの搬送は、産業廃棄物収集運搬業の許可を受けた業者に委託しています。



VOICE

郡山分工場では、ロックウールくずの発生量が多く、社内で処理しきれない状態がありました。今回、「もったいない」精神で、分別や粉砕を徹底したところ、堺ニチアスでリサイクル可能に！ 今後はさらに「もったいない」精神でくずを発生させないよう、歩留まり改善に努めていきます。



郡山分工場 製造課
前川 昌也

VOICE

堺ニチアスでは、現在、ロックウールくずについてはすべてリユース、リサイクルしており、ゼロエミッションを達成しています。今回、郡山分工場からの要請もあり、グループ間での省資源活動に貢献できました。今後もお客さまから排出される廃材も含め対応していきます。



堺ニチアス 製造部
殿村 順也

オールニチアスの改善活動(NKK)

ニチアスでは、「現場力のさらなる向上」を通じ持続的競争力のある企業への成長を目指し、全部門および子会社を含めたオールニチアスで「ニチアス改善活動(NKK)」に取り組んでいます。その概要をご紹介します。

NKK(ニチアス改善活動)とは

2015年4月から当社グループ全体で取り組んでいる改善活動です。その特徴は、従来の改善活動が製造部門だけを対象としていたのに対し、NKKでは、製造部門はもとより営業、開発、事務管理部門などすべての部門が参加しています。また国内子会社、海外子会社も参加しています。「まずはやってみよう」を合言葉に、2015年度は326チーム、2,582人が参加、2016年度は544チーム、4,114人が参加しました。そして3年目である2017年度は、「さらにやってみよう」を合言葉に、より活発な活動を期待しています。

NKK(ニチアス改善活動)の目指すところ

自分たちの職場を良くしていくことで、ニチアスという会社の幹を太くたくましくしていくための土壌となるのがNKKへの取り組みです。そのねらいは「現場力のさらなる向上」です。「現場力向上」に向けての活動が、ニチアスグループの文化として根ざし、それにより、より一層の持続的競争力のある会社となることを目指しています。

活動の内容

NKKは、製造部門だけでなくほかの部門も活動に取り組みやすくすることに配慮した、4つのカテゴリーに分けて活動をおこなっています。カテゴリーは右記のとおりです。ビジネス展開、業務改善という2つのカテゴリーを準備することで、営業、開発、事務管理部門が参加しやすいように工夫しています。



活動のねらい

NKKが企業文化になることを目指す

NKKには「しごと改善」「人材育成」といったねらいに加え、多種多様なビジネスでグローバルに展開するニチアスメンバーの心をつなぐ機能もあると思っています。業務テーマに応じて参加カテゴリーを選べるようにしたことで、これまで改善活動に縁がなかった部門の参加も促され、層の厚みが増したと感じています。とりわけ世界各国の優秀メンバーが会して活動を披露する「NKK世界大会」には驚きや感動があります。改善活動は、企業の基礎体力づくりのようなもの。NKKをグループの企業文化として育んでいきたいと思っています。



技術本部 品質保証部 部長 (NKK事務局) 澤田 淳也

NKK世界大会と改善事例

毎年「オールニチアスNKK世界大会」を開催

活動の集大成として、毎年12月に「オールニチアスNKK世界大会」を東京で開催しています。2016年で2回目の開催になります。オールニチアス10カ国544チーム計4,114人が参加した中から、国内大会、中国大会、東南アジア大会、欧米大会といった予選会を勝ち抜いた5カ国13チームが参加しました。



東南アジア大会での発表の様子



オールニチアスNKK世界大会

NKK
改善事例1

国分工業「製品製造リードタイムの短縮」

【活動の目的】

・製品リードタイムの短縮(現状15日→目標7.5日)

【具体的な活動内容】

- ・複数工程で共用していた装置の専用化
- ・最適な製品冷却条件の再検討による冷却時間の短縮
- ・原材料の変更
- ・投入材料の開発・改良による工程待ち時間の短縮 など

【活動の結果】

・目標リードタイム7.5日を達成

活動
チーム
の声

VOICÉ 既成概念を払拭し、問題解決への新たな意識を共有

製品を早く製造するために「細くて速い流れ」をメンバー全員の共通認識として、工程ごとにEGRS原則(削除できないか/結合できないか/変換・再配置できないか/単純化できないか)を議論しました。当初は、材料開発・改良の経験が少ないため、材料の専門用語を理解し、要望を材料メーカーに伝えて改良の方向を探ることに苦労しました。その結果、活動メンバー全員で「こういうモノだと思っていたこと」に疑問点をもち、「これができたら良いなと思うこと」を実現することができたと思います。活動の大きな成果としては、課題解決へのキーワードが「なくせないか・一緒にできないか・順番を変更できないか・簡単にできないか」になり、「こうあるべき」の方向性を全員が共有しやすくなったことだと感じています。



国分工業 ハニクル製造課 岸田 高志

NKK
改善事例2

結城工場「事務管理部門における業務改善」

【活動の目的】

・事務管理部門の女性メンバー7名の業務改善

【具体的な活動内容】

- ・業務の棚卸しによるスキルマップの作成
- ・業務マニュアルの作成
- ・業務トレーニングの実施 など

【活動の結果】

・多能工化による各メンバーの労働時間の平準化に成功
・余裕時間が生まれ、他部署への応援が可能となる

活動
チーム
の声

VOICÉ メンバー各人の改善に対する視野が広がる

業務改善に向け、「自分たちができること」をメンバー全員が真剣に話し合いました。従来は海外向け特殊製品の見積りや手配内容が違う数百種類の資材発注など専門性が高い業務が多く、担当者でないとわからないという状況が多く見られました。そのため担当者の不在時は対応に困ることもありました。今回の活動で作成した業務マニュアルは「これを見れば誰でも業務が遂行できる」を目指しました。理想はプラモデルの説明書でしたが、複雑な業務を理解できるようにするため何度も修正を重ね、作成にはかなりの時間を費やしました。この活動を機にメンバー各人が多様な業務を修得し、スキルの底上げができました。互いの業務をカバーし合う環境が整ったことでチームワークが格段に向上し、部門間の垣根を越えた活動を経験したことで、メンバー各人の改善に対する視野が広がったと思います。



結城工場 製造課 古澤 はるか

ニチアス株式会社

〒104-8555 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号

TEL 03-4413-1194 (CSRチーム事務局)

<http://www.nichias.co.jp>



表紙の写真

ニチアスは古くから日本を指すトンボをトレードマークとして使用してきました。CSRレポートでは、トンボをテーマにした写真を当社グループの従業員から公募し、掲載しています。2017年の応募者数は35人でした。表紙の写真は「自然との調和」をイメージしたトンボの写真として、見事優秀賞に輝いた作品です。

撮影者のコメント

私は自然の豊かなところに旅行に行くのが好きで、いつも旅先の自然を写真に残します。写真は記憶を保存しておくのにとっても良い方法だと思っています。

この写真を撮った場所は、タイのナコンシータマラート県にあるJim Thompson Farmです。広大な敷地のなかにいろいろな種類の花畑やオーガニック農園などがあり、トンボ・蝶などたくさんの虫が舞う自然あふれるとても素敵な場所です。

THAI NICHIAS INTERNATIONAL CO., LTD.(タイ) PAWEENNAN PAYANTAKOM

この印刷物
1冊あたり
CO₂ 254.8g



この印刷物は、日本水なし印刷協会、カーボンフリーコンサルティングを通じ、温室効果ガス削減プロジェクト（自然エネルギー事業）によって削減された CO₂ 排出権を購入することで、印刷物制作において排出された CO₂ を相殺しています。



印刷版の作成時に有害な現像液を使わず、また印刷の際にイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な水なし印刷を採用しています。



この印刷物は鉱物油を使用せずに VOC（揮発性有機化合物）を含まない 100% 植物油型インキを使用しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



京都議定書の目標である「温室効果ガス 6% 削減」のためには、国内森林で「3.9% 吸収」の実現が必要です。国産材を積極的に使うことは CO₂ を吸収する森の育成に貢献できます。この冊子の制作には、国産材が製紙原料として活用されています。



LC-CO₂ に関しては、左記 QR コードからご覧いただけます。